

世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）  
第5次増資会合における藺浦外務副大臣ステートメント  
（平成28年9月16日 於：モントリオール）

御列席の皆様、

本日、世界エイズ・結核・マラリア対策基金の第5次増資会合に出席することができ光栄に思います。

グローバルファンドは、設立以来2,000万人の命を救うという高い実績を上げるなど、国際保健分野で主要な役割を果たしてきました。ダブル事務局長を始めとするグローバルファンド事務局関係者、各国政府、企業、市民社会などすべての関係者の多大なる努力と貢献に心からの敬意を表します。

我が国は、生みの親として、2000年のG8九州・沖縄サミットを契機とした設立以降、グローバルファンドに積極的に貢献してまいりました。昨年12月、我が国は欧州・北米以外で初となる増資準備会合を主催しました。同会合では、第5次増資期間に求められる活動や必要なリソースにつき有意義な議論を行い、本日の増資会合を主催されたトルドー首相に確実なたすきを繋ぐことができたと自負しています。

また、本年5月、日本が議長国を務めたG7伊勢志摩サミットでは、公衆衛生危機への対応強化、感染症予防・備えにも資するユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進、薬剤耐性への対応強化という3つの柱を軸に、国際保健を重要な議題の一つとして取り上げました。「国際保健のためのG7伊勢志摩ビジョン」において、G7の首脳たちがグローバルファンドの果たす重要な役割及び第5次増資会合の成功についても訴えています。

さらに、先月行われた第6回アフリカ開発会議において、優先分野の一つとして国際保健を取り上げました。安倍総理やその他要人が出席した、サイドイベント「UHC in Africa」を共催いただいたグローバルファンドに心から謝意を表します。アフリカ諸国のオーナーシップを醸成しUHCを促進する上で、グローバルファンドが担う重要な役割を強く実感しました。

我が国は、グローバルファンドが、一人ひとりに焦点をあて、人々が自由と自己実現を確保するため、人々及び社会の能力強化を図るという「人間の安全保障」の理念を強く歓迎します。こうした理念は、グローバルファンドが UHC の促進に尽力し、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の達成に向けて寄与する基盤として成り立っています。

私は、G7 伊勢志摩サミットに先立ち、グローバルファンドへ当面 8 億ドルの拠出を行うことを表明しました。ここに改めて、日本としてこのコミットメントを着実に果たし、国際保健分野に一層の貢献を行っていく決意をお伝えします。

すべての関係者の緊密なパートナーシップの下、グローバルファンドの活動が、一層の発展を遂げることを祈念し、私の挨拶と致します。ありがとうございました。

(了)